

講義名	研究演習 (人)		
講義コード	25229	授業形態	
担当教員	内田 遼介	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限
		演習番号	SEM250

学部・学科	演習分野
人間社会学部・人間健康学科	スポーツ心理学演習

概要説明

スポーツ心理学は、スポーツ場面で観察される人間行動を主に心理学の研究手法を用いて探求する学問です。この演習では、スポーツ心理学に関する文献を読んで頭の中で理解するだけでなく、実際に自分たちで調査や実験を行ってみて、確かに文献中で示されている現象が確認できるのかを体験的に学ぶ場になりたいと思っています。具体的には、文献・書籍の輪読、調査や実験に係る準備、調査対象者/実験参加者の募集、調査/実験の実施、データの入力作業、データを可視化する方法、データを分析する方法、得られた結果に対する考察など、一通りスポーツ心理学の研究に必要な作業を体験してもらおうと考えています。そして、自分自身が興味・関心を持つテーマ（例えばメンタルトレーニングなど）を一つ見つけてもらい、各自で研究活動を進めていく形式をとりたいと考えています。

主な卒業論文のタイトル

- 自己決定場面における課題価値の影響に関する研究 バッティング課題を用いた実験的検討
- 運動部活動の経験とライフスキルの関連性 文化的自己観と学業に対する目的意識の調整効果

教員よりの要望

- 演習活動中に積極的に発言してくれる学生を希望します。的外れな意見でもまったく問題ありません。積極的に議論に参加しようとする前向きな気持ちが大切です。
- このゼミでは、実際に調査/実験に係る一通りの作業を体験してもらおうと思っています。そのため、何かモノを作ったりするのが苦手だったり、パソコンを使って作業をすることが嫌いだったりする学生にはあまり向かないかもしれません。

選考方法

- 演習申込書と面談、過去の成績によって選考します。

評価方法

- 出席状況、発表の出来、調査/実験活動に対する貢献度で成績を評価します。

教員英字氏名	研究室
Ryosuke UCHIDA	研究棟 4階 5408研究室

最終学歴
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了

学位
博士(人間科学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

- 主な研究活動
- 運動部活動での被体罰経験が体罰への容認的態度になぜ影響するのか
 - 運動部指導者が実際に体罰行使に至る際の心理のプロセスの解明
 - 潜在的体罰容認派を見抜く方法の検討

体罰に関する研究は教員自身が個人的に行っている研究であって、皆さんが研究演習でを行う活動とはあまり関係がありません。もちろん、興味・関心があれば一緒に研究をしましょう。スポーツ心理学には、実に多様な研究テーマがあります。メンタルトレーニングには本当に効果があるのか興味がある、どうすれば効果的に運動スキルを習得できるのか興味があるなど、スポーツの心理的側面に関する研究テーマを見つけて一緒に研究をしましょう。

趣味・特技

所属
なし

所属学会

- スポーツ心理学会
- 日本社会心理学会
- 日本グループ・ダイナミックス学会
- 日本心理学会
- 日本体育学会
- Society for Personality and Social Psychology
- 日本生涯スポーツ学会

専門分野

スポーツ心理学

担当科目

- スポーツ心理学
- スポーツ統計学
- リーダーシップ論
- コーチング論
- 教養特講 (人間健康学科へのいざない)
- 運動処方演習B

備考

- 演習活動の中には参加費が必要なものがあります。

実務経験の有無及び活用

なし